

第10回インフラツーリズム有識者懇談会議事録（逐語録）

令和5年3月17日（金）14:00～16:00

【事務局】ただいまより、第10回インフラツーリズム有識者懇談会を開催いたします。本日の進行を務めます、国交省の総合政策局公共事業企画調整課の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。それでは懇談会の開催にあたりまして、総合政策局公共事業企画調整課長の岩崎よりご挨拶いたします。

【公共事業企画調整課長】岩崎でございます。年度末の大変お忙しい中、お集まりいただきまして御礼を申し上げます。本日の懇談会ですけれども、議事は5点用意させていただいております。これまで皆様のアドバイスをいただきながら、このプロジェクトとして様々な取組をやってまいりました。その中には一定の成果が出てきたところもございますけれども課題がまだまだございます。モデル地区の取組を水平展開していくための改定案、政策、振り返りと今後の方針について本日はご議論をいただきたいと思っております。本日は忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

【事務局】ありがとうございます。続きまして本日まで出席いただいております本懇談会の委員の方々を紹介いたします。まず清水哲夫座長でございます。阿部貴弘委員でございます。河野まゆ子委員でございます。篠原靖委員でございます。なお、行政側の参加者は手元の配布資料を持って変えさせていただきます。お手元に配付しております資料のご確認をお願いいたします。資料は議事次第、配席図、委員名簿、資料1～5です。本日、公開の会議ということでオンライン配信をしております。それでは、清水座長から一言いただきたいと思っております。お願いします。

【清水座長】いよいよ新しい時代が始まりつつある中で、本日は中間総括ということで、取組を改めて客観的に評価して、今後の進め方を確認したいと思っております。手引きについては各モデル地区の知見を踏まえた改定をすることと、あと一部の地域については少し卒業といいますか、自動車教習の世界でいうと仮免許ですかね。いよいよ路上にでるといようなタイミングの地区も出てきているように聞いておりますし、それから次の展開でインバウンドという話とインフラも少しいろんなものが登場する中で、インフラの種類や地域にもう少しバリエーションを取るとい考え方と、支援の形も今までは限られたところで集中して支援してきたものを手引きなどもうまく活用しながら幅広く展開していくというチャンスもあると思っておりますので、そういったところを最後に議論できればと思っております。よろしくお願いいたします。

【事務局】どうもありがとうございました。それでは議事に移らせていただきます。以降の

進行は清水座長にお願いしたいと存じます。

【清水議長】それでは早速議事に入りたいと思います。各モデル地区の中間総括とインフラツーリズムの拡大の手引きの改定と今後の方針というのが中心です。まず前回の議論と今回の内容につきまして事務局からご説明をお願いします。

【事務局】資料 1 の 1 ページでございます。前回の第 9 回の懇談会で提出しました事業全体のスケジュールでございます。手引きの改訂は資料の 3 でご説明いたします。中間総括は今後の方針も含めて資料 4 でご説明いたします。各モデル地区の中間評価は資料 2 で中間総括をさせていただきます。

続きまして 2 ページになります。前回第 9 回の懇談会でいただいた主な意見でございます。進捗と今後の予定というところで、なぜ観光振興を行うのかという原点を確認すべきということでしたので中間総括を資料 4 でご提示しております。また、各地域の課題と今後の実施方針をまとめて、卒業してもらう必要があるのではないかとのご意見、卒業させる地域ともう少し支援する地域を明確にする、また新たな地区の検討が必要ではないかというご意見がありましたので、モデル地区の中間総括ということと、今後の予定の方に反映させていただいております。最後に卒業してもフォローアップ体制を作ることで今後に繋がるのではないかとということで、こちらも今後の予定でご説明させていただきます。

続きまして手引きですが、いろいろご意見をいただいておりますので、資料 3 でご説明したいと思っております。

それでは 3 ページになりますが、本日議論していただく内容としては大きく 3 項目ございます。1 つ目は各モデル地区のこれまでの取組の中間評価ということで、各モデル地区の今後の実施方針の確認をしていただきます。さらには、来年度以降も引き続き支援するところと社会実験を終了する箇所の選別をお願いします。2 つ目は手引きの改訂版について公表に向けた内容の確認をしていただきます。3 つ目は事業全体の中間総括ということで、今後の方向性についてのご意見をいただきますのでよろしく願いいたします。

【清水議長】ありがとうございました。ただいまご説明いただきました前回までの内容を踏まえて、何かございますか。特になければ、次に進めさせていただきたいと思います。各モデル地区の中間総括について、事務局からご説明をよろしく願いいたします。

【事務局】資料 2 に各モデル地区をまとめておりますので、順を追ってご説明申し上げます。

まず 1 ページでございます。各モデル地区の進捗状況と中間総括をご説明後、社会実験の終了箇所をご説明します。

3 ページになりますが、各モデル地区 7 ヶ所について、今年度も協議会や意見交換、ツアー

一の実施を様々やってきておりますので、個別にご説明いたします。

4 ページになります。今後の取組方針を各モデル地区でまとめる考え方になります。大きな考え方として、1 番から 4 番の戦略策定、事業基盤の構築、提供商品の造成、対外的な発信というカテゴリでポイントをまとめてございます。

それではまずは天ヶ瀬ダムからご説明いたします。

6 ページになります。天ヶ瀬ダムでございますが令和元年度からモデル事業という形で進めてまいりました。実施主体としては、宇治市観光協会が中心となって動かしていくということで合意形成が取れております。さらに地域の特性もありますので、観光発展検討会という地域での懇談会の中では、近隣の教育機関の誘致に向けた取組を行うということで合意が取れております。

7 ページになります。教育公務員向けモニターツアーを 2 月に行っておりまして、8 ページに主な意見と今後の方針を記載しております。見学だけで 2 時間は短いので、テーマ別に関連学習をまとめて行うことができるツアーの造成をしてはどうかということで、テーマに合わせたガイドやそれに合わせたマニュアルを作っていきたいということで合意がとれています。

9 ページになります。主に教育旅行向けということで、今後教育旅行向けの見学ツアーを引き続き地域で動かしていきたいということで話し合いがされております。

最後に 10 ページの実施方針になります。戦略策定から対外的な発信ということでカテゴリ別にまとめています。一番下の総括にある通り、天ヶ瀬ダムについては、教育機関に向けた取組の深化ということで地域合意が取れているので、誘致に向けて、今年度実施したモニターツアーやマニュアル作成を引き続きやっていく必要があるということで、販売の実績作りに向けて販促を強化する必要があるのではないかとということでまとめています。

続きまして鶴田ダムになります。

12 ページになります。鶴田ダムは地域と一緒に進めてまいりました。右側のスケジュールにある通り、実は令和 3 年度に水害があり、一時取組を中断しております。今年度、関係者も含め新たに内容を検討しており、さつま町を占用主体とした新たな取組ができないか、さらに金額の流動化ができないかということで具体的に詰めております。

その上で 13 ページになります。鶴田ダムの見学を観光事業者に売り込むためのチラシを 13、14 ページの通りまとめまして、商談会の方に出して誘致をしているところでございます。

15 ページになります。見学会の有料化に向けた検討を現在進めております。周辺の関係者との役割分担や河川空間のオープン化を含めた体制の構築、見学の有料化に合わせて休日の受け入れ態勢を検討しております。

16 ページは役割分担のイメージでございます。ダム管理所が全体の取りまとめをしながら、ツアー会社や関連する協力団体がツアーを組み、アドバイスは観光物産協会が行うような形で進めていきたいというように考えています。

17 ページにはさつま町が占用主体となる手続きをとりながら、さらに活用ができないかということで検討をしているところでございます。

18 ページには、来年度の見学ツアーを有料化したいというところで詰めております。金額は500円、カレー付きで1,000円という単価を設定しながら、NPO法人のスタッフが案内するような形でできないかということで、平日と第2第4日曜日にやるような運用を始めたいというところで進めております。

19 ページは今後の実施方針でございます。まず、新たに拡大するため事業モデルの変更をし、来年度の見学有料化に伴う価値に見合った質となるコンテンツの磨き上げを実施するとともに、新たな事業体制を検討する必要があります。

続きまして日下川新規放水路です。日高村が中心となり、観光協会も運営体制に入っています。令和2年度から協議会やファムツアーを実施して検討を重ねてきました。これから完成する施設であるので、工事中の段階から見せ方に違いが出てきます。この地区も教育旅行をターゲットにしたツアーが良いのではないかとということで22ページになりますけれども、教育旅行向けの検討を進めているところでございます。モデルコースとしては防災、環境や歴史を入れ込んだツアーの構築で学校関係者の呼び込みができるのではないかとということを検討しており、23ページのような教育旅行向けの資料の検討を進めているところでございます。

24 ページになりますが、現地協議会を開催し、教育旅行向けのアイデア出しを検討した方が良いのではないかと様々ご意見を頂いているところでございます。

25 ページになりますが、総括として既存の取組の優先順位をつけ、まずは教育旅行を基盤として一般向けの商品コンテンツに発展させていく必要があります。さらには河川空間のオープン化などの長期的な計画を見据えつつ、放水路単体のコンテンツ整備から取り組む必要があるのではないかとということをもとめております。

続きまして来島海峡大橋でございます。

27 ページになります。補助事業者や実施事業者含めたモデル事業の展開をしております。様々な形でツアー販売をしております、今年度も主に団体旅行向けに実施をしております。

28 ページが事業の実施形態の体系図になります。本四高速を中心に、補助事業者の(株)しまなみがツアーの補助をしている形で塔頂ツアーを実施しているところでございます。

29 ページが今年度行ったツアーでございます。ブリッジマリッジクルーズということで、ウェディングの写真を撮るツアーや、橋マニアになろうということで橋巡りツアーを実施、(株)しまなみの方では観潮船を中心としたツアーも何回か実施しているところでございます。

30 ページになりますが、ツアー料金が高額ではないかという話と、催行人数に達していないとか、ければキャンセルする人が一定数いるというご意見もありましたので、対策を検討しております。

まとめとしまして、31 ページになります。今後の実施方針ですが、この地区は会議体で

決定された数値目標を年度ごとに議論しながらやっておりますので、関係者に共有がされているのではないかと踏まえ、過年度の取組の成果と事業基盤を活かした引き続きの事業を進めているところでございます。今までされていた取組の反省が今後の方策に活かされておりますので、推進体制は構築されています。ただ、ボランティアガイドの活用によるツアー単価の引き下げやOTAの導入などの検討を今後進めていく予定です。

続きまして鳴子ダムになります。

33 ページになります。鳴子ダム管理所と共に中心になっているのは大崎観光公社になります。令和元年度から実施をしまして、34、35 ページ目のようにツアーは様々やっています。

36 ページが総括となりますが、鳴子ダム地区におけるインフラツーリズム事業の持続性の向上として、河川空間のオープン化というところが今後の検討事項となりますので、実際にそういった形での取組になるかというところで、事業の継続性があるのではないかとことでまとめております。

続きまして白鳥大橋でございます。

38 ページになります。室蘭市を中心とした協議会の中にスターマリンというクルーズを運営する会社が入っております、ここがツアー販売をしております。これまでクルーズツアーなどをやりながら進めてまいりました。

39 ページがツアー内容です。

40 ページですが、今年の1月に広域周遊の観光というのも必要ではないかということで、3市町（室蘭市、登別市、伊達市）を含めたパネルディスカッションで、白鳥大橋を中心とした取組などが議論されました。

41 ページになりますが、これまでの協議会の更にサブワーキングチームということで、少人数で具体的に連携しながら、広域の観光協議会と連携し、さらなる発展を目指していきたいという考えでございます。

42 ページになります。まとめ、今後の実施方針になります。個人向けの有料ツアーは販売されており、基本的なインフラツーリズムも実践されております。ただ、西胆振地域とか、広域的な観光地との連携がまだ少ないので、更なる実績の積み上げが必要です。

モデル地区の最後は八ッ場ダムでございます。八ッ場ダムは地域の方で主体的に動いております。

43 ページにあります通り、ダムの堤体来訪者数はコロナの影響もそこまで受けずに、今年度も順調に来訪していたのではないかと見ています。

44 ページにはそのダムの周辺を活用した水陸両用バスの運行を開始しております、様々な取組も始まっているところでございます。

最後に、社会実験の終了箇所について、47 ページをご覧いただきたいと思っております。

今までのご説明した天ヶ瀬ダム、鶴田ダム、日下川新規放水路、来島海峡大橋、鳴子ダム、白鳥大橋、八ッ場ダムを戦略策定、事業基盤の構築、提供商品の造成と対外的な発信という

ところでそれぞれ評価しましたが、最後に一番下の「地域が主体となったツアーの実施」というところで今回見てみますと、来島海峡大橋、鳴子ダム、白鳥大橋、八ッ場ダムについては、地域が主体となったツアーを計画しておりますので、今回、社会実験を終了しても良いと思っております。天ヶ瀬ダム、鶴田ダム、日下川新規放水路については、モデル地区継続を考えていきたいと思っております。

【清水座長】ありがとうございました。それでは、ご説明いただきました各取組の内容と最終的に社会実験終了する箇所が提案されたというところについて、ご意見を賜りたいと思えます。

【篠原委員】今回振り返ってみますと、コロナ前から始まったこの指定地域でございますけれども、正直この3年間は休止状態になったというのが正直な感想でございますけれども、今年になりまして、再度、具体的にお客様を集めるために、当初の目標であった民間へ移行していくことを目標に私は動いてまいりました。担当したのは鶴田ダム、来島海峡大橋、白鳥大橋でございます。おかげさまで先日訪問した鶴田ダムにおいても新たにこの計画の仕組みをですね、全面的に受けていただくNPO団体が見つかりまして、有料化が実現をしたということになりました。来島海峡大橋に関しましては、本四高速さんから聞いているかもしれないのですが、なかなか安全面の管理ということで非常に慎重に運営されてきたわけですが、その辺、明石海峡大橋の実績等の安全管理の部分がだいぶノウハウとしてお持ちになっているので、安全管理面とそのツアーを受け入れて販売をしていくという部分について切り離して行くと、四国地整さんを含めまして、管理部分とツアーの運営というものを民間に切り分けていくという話をさせていただきまして、最新の情報でございますと、株式会社しなみという船の運用会社が統括的な販売をしていくような話になってきたという情報もございます。本四高速さん大変お疲れ様でした。そして白鳥大橋でございますが、先ほどご案内ございましたように、河南課長とこのシンポジウムもさせていただいたわけですが、ひとえに北海道開発局の皆さんに本当にご努力をいただきました。室蘭市さんが中核でございまして頑張ってくださいしておりますけど、全体の総括としても、本当に汗をかきながらここまで育てていただきまして、管理と販売をうまくきり分けながら、しっかりと事業化ができました。そして卒業のお話になりますけれども、鶴田ダムが今年の春からお金を取って回していくという段階ですから、もうちょっと時間をかけて、もっと高額で取れるための仕組み作りを応援していきたいということで残したのですが、来島海峡大橋と白鳥大橋は卒業ということでよろしいかなというふうに考えております。

【河野委員】私の担当は天ヶ瀬ダム、日下川新規放水路です。まず、天ヶ瀬ダムですが、有識者を呼んでの会議は今年度消極的で、体制をもう1回ちゃんと組み直して物を作っていくという段階に具体的に入ったので、特に私が行く機会には年度内にはなかったです。日下川

新規放水路ですが、まだ物を作っている状態なので、他のものと比べるとまだ活用を見据えるところまでいかない中ではありますが、着々と進んでいるなという印象です。課題としましては、なにせ地方部なものですから篠原先生がおっしゃったような、運営とか、企画開発、流通などを担ってもらえる既存組織がそもそも地域にないというところで、観光協会がかなりのところ主体にならざるを得ないというところの中ではありますが。とはいえ、四国地方整備局との連携も密ですし、6月ぐらいに通水が見込まれていますが、工事事業者さんの方もかなり積極的で、これから技術面のことも含めてガイディングの中に入れてくためのネタ出しなどは事業者さんから積極的に行っているところで、ガイドシナリオをこれから具体的に作っていくための素材は相当集まってきています。そして供用開始され、工事用の横穴も使わなくなるところを活用して何かしようということで、本来は工事が終わった後潰すところをインフラツーリズムのために残すという協議をし、その場所を特殊なイベント空間といいますか、体験空間として活用していくために、報告の中では具体的にはありませんでしたが、次年度に向けて具体的に何かVRだとかARだとか、どのようにしてその空間を魅力的に見せることができるか、というようなことの提案をいろんな事業者さんに投げかけてもらっているというところで、これからその見せ方とコンテンツをターゲット向けに細分化して具体的に考えられる直前のところまで来ています。来年度になったら、具体的に誰向けにどんなメッセージで、どんな内容で、何時間かけてということを作っていくところまで準備が進んできました。次の課題としては、それを今度どう発信するのか、いくらで誰向けに本当に売れるのかというところの実現性を検証して照らしていくことが次のまた難しいところになるなというような進捗でいます。

【清水座長】私の方では鳴子ダムを担当しました。33ページの体制を見ていただくと、基本的にはスタート時は管理事務所が強いイニシアチブで動いていました。他の地域と違ってすぐそばに宿泊拠点があるということと、あと下流に世界農業遺産の地域があるということで、インフラ単体だけではなくその周りと組み合わせる余地があるという意味で、全体の中でそこを強く押し出してみてもどうかということはかなり最初から議論させていただきました。そういった意味でいうと最終的には観光公社やそれに類するような組織のところ、こういったインフラツーリズムを主体的にやっただ中でどうしても管理者が介在しなければいけないところについては少しやり方を工夫していただくというところのその体制作りはまだ残っているのですが、それ以外は、顧客目線に立った商品開発もずいぶん意識してやっただいでいるようなので、基本的にはミニマムな支援でよく、卒業でいいのではないかと私自身も思っているところです。

【阿部委員】社会実験の終了箇所は異論ないのですが、最後に社会実験終了の観点で、地域が主体となったツアーを実施しているかどうかの評価に有料ツアーを継続的に販売しているかどうかを入れると、最終的にそこを目指してしまうのだなというのはあります。もう少

し評価の書き方について、例えば地域が主体となった運営組織を整えている、など誤解を与えないような記載にさせていただいた方が、モデル地区の狙いどころも明確になるのではないかと思います。

【清水座長】おっしゃる通り、少し文言について、気をつけてほしいと思います。他に意見がなければ、4つの終了予定箇所について、必要な支援はご相談に応じてやっていくということで終了を決定し、先に進めたいと思います。それでは、資料3のインフラツーリズム拡大の手引き改訂版（案）のご説明をよろしくお願いします。

【事務局】全体の構成としまして第1章から第5章までとなっております。

5ページ目になりますが、今回の手引きの改定版発行に際してということで、管理所の方を読んでいただく他にも地域の自治体の方などがご覧になっても参考になるような内容にしております。

続いて、6ページが第1章、8ページがインフラツーリズムに取り組む意義でございます。9ページが現状について、データを基に記載しております。

続いて10ページが観光振興のポイントについて、土木広報からツーリズムに転換していくポイントとなるような5項目をまとめております。

続きまして、12ページでは観光客のニーズをまとめております。ここまでが第1章でございます。

続いて第2章がインフラツーリズム拡大の考え方というところでございます。

16ページがまず拡大に向けた考え方で、それぞれのインフラ施設が土木広報の段階と付加価値を提供している段階、周辺観光資源と連携するようなそれぞれの段階についての記載をしております。

17ページが取り組むべき事項および実施主体者の例ということで、具体的に取り組むべき事項と誰が主体的にやっていくのが良いかというものを表にまとめております。具体的に施設管理者と自治体、観光協会がどのようなところを支援するのが最適かということをもとめています。

続いて18ページに、今回拡大に向けての取組事項の概要ということで、1番から8番まででございます。具体的には第3章以降に詳細の説明がございしますが、それぞれの項目で基礎的な取組み、それから発展的な取組みということで記載してございます。

次が19ページでございます。18ページのチェックリストの使い方ということでこれから新たに取組を始める地域がどのようなところを見るべきであるかということと、既に取組みを行っている地域がどのような項目を見ていけば良いかということに記載してございます。

続きまして第3章でございます。22ページが1番から8番までの具体的な項目の考え方を記載しております。まず1番の戦略の策定ということで、基本的な取組が地域の現状の把

握というところで、発展的な取組はゴールイメージの設定で、スケジュールを明確化していくという内容を記載してございます。

26 ページが体制の構築で、基本的な取組としては、会議体の組成ということで、ステークホルダーの巻き込みや関係者との合意形成などが記載されています。28 ページでは発展的な取組として業務分掌の明確化ということで、それぞれの組織がどのようなことを行っていくべきかということに記載しております。

続きまして 30 ページが、情報発信とプロモーションになります。

31 ページの基礎的な取組で情報発信可能な媒体を有するというところで、情報ツールやウェブサイトの重要性、それから SNS 活用といったことが記載されております。32 ページの発展的な取組では、情報の鮮度を保つ工夫ということで常に意識して更新していく必要があるといった内容を伝えてございます。33 ページが双方向性のある情報発信ということで、こちらは消費者にも情報を発信してもらいコミュニティを形成するということが記載されております。

34 ページは受入環境整備のハード整備でございます。35 ページは基礎的な取組として最低限必要な整備を記載しております。36 ページはコンテンツの特性、魅力を活かしたハード整備の定義、37 ページが顧客に合わせたハード整備ということに記載しております。

続きまして 5 番の受入環境整備のソフト整備の考え方が 38 ページに記載されております。基礎的な取組としては予約受付体制の整備が記載されております。39 ページが発展的な取組で、決済ツールの整備やコーディネート機能の充実が記載されております。

40 ページがガイドの整備で、基礎的な取組としましては、ガイドの価値と役割の明確化を記載してございます。42 ページはガイド体制の整備で確認しておくべきところ、それから 43 ページがガイドクオリティの管理ということに記載してございます。

44 ページはコンテンツを造成についてで、まず基本的な取組として基礎情報のタフリ化について最低限必要な情報をまとめています。46 ページが発展的な取組としてコンテンツのバリエーション化や高付加価値化といった対応をまとめています。

48 ページは販路の構築で、販売先の確保という基礎的な取組、49 ページが在庫管理といった発展的な取組を記載してございます。ここまでの第 3 章になります。

続いて 50 ページからが第 4 章で、詳細は割愛させていただきます。

それから 58 ページが第 5 章で参考資料ということで、コロナ禍における旅行市場への影響やその他参考資料的なものを記載してございます。説明は以上になります。

【清水座長】 今のご説明につきまして、ご質問ご意見ございましたらよろしくお願い致します。

【篠原委員】

ご説明ありがとうございました。このマニュアルの内容に入る前に、成功していくときの共

通したポイントっていうのがあると思うのですが、このインフラツーリズムの推進は何のためにやるのかということと地域と本当に共有していかなければいけないと思います。教育旅行や、一般のどこのどのような方をお呼びして、何を地域に残せるのかということが明確にしないと、2年も3年もすると疲れてやめてしまうということが繰り返されていたわけです。どのようにすると地域にお金が落ちるのかという議論と、どうすれば具体的に民間に手伝ってもらえるのか、このあたりのポイントをこの手引きの手順として理解をしていただくということが大事になります。合意形成の話、それから具体的に民間に移行していくときの協議会の結成とどのような形で国の施設をその市町村の方に下ろして、それをどのようにして運営する民間事業者を決めていくのかということを入れていただくよう事前をお願いしていたのですが、これは入っていますか。

【事務局】今ご指摘いただいた箇所については、まだ入っておりません。

【篠原委員】話を進めていくときに必ずその問題になるので、いろいろ書いてありますが、今までは何をどのようにやっていくべきかわかりませんでした。その何っていうのがここで整理はされているのでそれはいいと思いますけど、どのようにやるっていう部分はこれを参考にしながら伴走してあげないと回っていかないだろうと思います。ですから、これが作りっ放しにならないよう到来年度に向かって伴走支援の仕組みっていうのをしっかり作っていかないとならないだろうと思います。先ほど阿部先生のご指摘のように、地域がツアーを回していくということが卒業という言葉では決してなく、お金が儲かる仕組みというものを作るために整理をしてあげる必要があります。ですから、民間の発想で、どうしたら魅力アップができるかということを考えていただく話で、国交省の皆さんがやれる範囲はその管理の部分、そして民間にどのようにして儲けてもらうかという発想について、マニュアルで明確に整理することだと思いました。

【河野委員】追加で1点、関連していますが、どのようにやるかの部分のお話で、29ページと27ページぐらいに河川空間の占用と河川のオープン化に関しては具体的に書かれていて、これはダム系の人たちにとっては意味があると思うのですが、バリエーションを増やしていくというところでは、河川空間のオープン化では対応できない一般国有財産のものとも入ってくると、またスキームがちょっと変わってきたりするはずなので、河川以外のパターンも入れてあげたほうが良いかと思いました。

【阿部委員】今から新しく入れるのも大変だと思いますが、道路占用の話のような新しいバリエーションをコラム的に入れることをご検討いただくことも手かと思えます。それから少し細かい話ですが、この手引きの中だと、自治体がひとまとまりで扱われてしまっています。自治体の方と仕事をすると、建設部局と環境部局と教育委員会などでそれぞれ向いてる

方向が全然違います。今からだとなかなか大変だと思いますが、例えば、事例紹介をする際の体制構築図に自治体のこういうところと連携するのだと見えてくるような記載をしたほうが良いかと思いました。

【河野委員】理想はそうですが、全然関係のない部署のやる気のある人がやっているのが実情としてありますので、明確に記載してしまうと、その部署がやる気ないと投げられてしまうところもあって、実情と照らすと結構難しいですね。

【清水座長】いただいた意見で1つ付け加えるとして、管理所の人が見るという趣旨でこの手引きを作っていますよね。管理所がこういうものを進めていくというふうになったときにわかりやすくなっているかがポイントで、機会があれば現場の人に見てもらうのも良いかなというふうに思いました。それで最終的には民間の方が中心になって、管理所の方がそこに素材を出すということになるので、どういう素材の出し方をすると、価値が高まりお金が入ってくるのかわかることがポイントで、管理者側の本気度の出し方によって、そのインフラが地域にとって有難く思われたり、他の事業をやりやすくなったりするなど、お金儲けも重要ですが、それ以外のところも重要なので、そこを間違えないようにしておかなければいけないなど今までの議論とちょっと違う視点で申し上げます。それでは、1回ずつご発言いただきましたので、この段階で事務局の方からご発言をお願いしたいと思います。

【事務局】まず、内容的に反映されてない部分もご指摘の通りでございますので、検討させていただき、デザインの編集と併せ、詰めてまいりたいと思っております。合意形成の部分でも最初に篠原先生が言われたことは整理しなければいけない点だと思います。

【篠原委員】16ページの図が差し替えとなっておりますが、単純に説明するには非常によかったですように思っていました。どのような図になるかというお示しはあるのでしょうか。

【事務局】基本的には今までの図の書き方と一緒にございます。矢印の書き方の部分だけを工夫したいという趣旨でございます。地域によって必ずしも周辺観光資源と連携することが良いとは限らないので、その部分を直したいと思っています。

【篠原委員】できれば決定する前にいただければと思います。

【清水座長】どこを狙うのかを明確にさせていただくのがわかればよいと思います。

【河野委員】文章も併せて見直すべきですね。

【篠原委員】元々このインフラツーリズムの発想っていうのは、明日の日本を支える観光ビ

ジョンという明確に政府の方針で公共施設の開放をして、それを観光資源にしようじゃないかというのがきっかけです。観光客というのがどこを指すのかということになるのですが、当然それはインバウンドを含めた地域に流動人口を作り、その地域でお金が落ちる仕組みをしていこうということだったと思います。だから、この真ん中の土木広報、高付加価値を目指すという話の流れはわかりますが、段階的に観光資源として回せるような仕組みに本当は持っていくべきだと思います。そこが混乱してしまうように思いますので、目指すものというのはあくまでその民間に移行をしながら、地域と繋げられるようにするというのをぶれないようにすることが大事だと思います。今度卒業いただいて、新しい参入もお願いしているので、そのときにやはり目指すものというものは明確に持っていかないといけないので、それがあの真ん中の部分でもいいという話でいくと、実際すぐ行き詰まってくると思います。鶴田ダムや来島海峡大橋にしてもそうですけど、初めはなかなか運用を民間に落とすような組織はありませんでした。これで完璧にお金が落ちる仕組みができていくかというところと全然そうではなくて、今度は民間の飲食店だとかがちゃんと繋がってくるような仕組みにならなければならないと思います。さっきお渡しした食事のパンフレットありますかね。外郭放水路についても今からもう 5 年ぐらい前に動いていて、周遊バスで町にきてそれで終わっていたものを、町の中でこの外郭放水路をテーマにした食事だとかポイントを繋げるような仕組みになってきました。明日の日本を支える観光ビジョンに近づいてきたということだと思います。

【清水座長】他はございませんか。今回この手引きは継続審議ということですが、期限を示していただいて、座長預かりとは行かないぐらいご指示が出たと思うので、メールで見ていただくという形で行くしかないと思いますがそういう取り扱いでよろしいですかね。それでは、4 番の中間総括と今後の方針のご説明をよろしくお願いします。

【事務局】

資料の 4 でございます。まずめくっていただきまして内容は三つにわかれております。インフラツーリズムのこれまでの取組と課題と今後の方向性というご説明でございます。

まず 2 ページになります。これまでの検討も含めて振り返りの話になります。インフラツーリズムの理念ということで、有識者懇談会の中でも皆さんご意見をいただきながらやっておりました。目指す方向性ということで、インフラへの理解を深める、地域に人を呼び込む、地域との連携を拡大するということで大きな目標に向かってやっていきたいと思います。そんな中で、先ほどもこの話題になりましたが拡大の考え方ということで、これまでの土木広報にさらにガイドの面白さとか見せ方を入れながら地域の観光資源と結び付けてやっていきたいと思いますということがございました。

次の 4 ページでございます。有識者懇談会は平成 30 年度に立ち上げまして、最初にこの手引きの前段となる施行版を 31 年度に出しました。元年度には、インフラツーリズム魅力

倍増プロジェクトというのを立ち上げまして、大きくメニューとして3つでございます。モデル地区での社会実験の実施、国内外に向けた魅力ある広報を展開、さらにはインバウンドへの対応というところで、大きく三つのメニューで進めましょうというところで議論を進めてきたところでございます。

5ページになります。モデル地区での社会実験につきましては、先ほどの個別の説明をしましたが、7ヶ所でそれぞれ元年度と2年度から選定したもので進めてまいりました。

6ページになります。国内外に向けた魅力ある広報というところでは、ポータルサイトを令和2年にリニューアルしておりまして、民間ツアーも含めてPRしております。さらには各モデル地区においては多言語化のパンフレットの作成に取り組んでまいりました。

7ページになります。インバウンド対応ということで、現地の方で多言語化の対応ということもやっております。案内マップや展示パネルといったものを多言語化の対応として整備してまいりました。

8ページになります。プロジェクトとして課題を整理しております。まず社会実験の実施の1番でございますが、取組としてはモデル地区の7ヶ所で取り組んでおります。4ヶ所で今回卒業ということ踏まえると民間主体のツアーが動いていってございました。ただ課題としては、インフラ施設分野に偏りがあるのと、地域と連携した集客性、収益性のある取組事例が少ない、モデル地区の知見の全国展開が不足しているのではないかということで整理しております。2番目のプロジェクトとしての魅力ある広報の展開ということで、ポータルサイトでのツアーの紹介や多言語パンフレットの作成をしておりますが、プッシュ型の広報ができていないこと、さらには魅力を伝えるコンテンツが不足しているのではないかということで整理しております。最後のインバウンドにつきましてはコロナが明けた後の動向を把握しきれていないというのが現状でございます。

最後のページになります。今言いました課題に対して今後の方向性ということでまとめております。インフラ施設分野に偏りがあるということにつきましては、分野を意識した新たなモデル地区を今後取り込んでいきたい、少なくとも1、2地域はダムや橋以外のものと考えています。地域と連携した集客性、収益性のある取組事例が少ないということに関しては、様々な施設での検討を少し考えたいと思います。具体的に言いますと、集客のある観光資源周辺に眠った近くのインフラ施設がないかというところを見ながら検討することや、魅力あるコンテンツを強化する検討もできるのではないかと考えております。モデル地区の知見の全国展開が不足しているということに関しては、拡大の手引きを引き続き全国展開する説明会の実施を考えております。さらにはモデル地区の成果発表会の実施もしてもよいのではないかと考えています。プッシュ型の広報ができていない、魅力を伝えるコンテンツが不足しているという課題につきましては、魅力ある発信手法の検討は、例えばSNSや旅行雑誌等の活用、あとは魅力ある動画をさらなるPRに使っていくという方法があるのではないかと考えております。最後にインバウンドの動向を把握できていないということですが、インバウンドの今後の状況も踏まえ、それに合わせた受け入れ環境整備

というのを引き続き取り組んでいきたいということで考えています。以上でございます。

【清水座長】ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について、ご質問ご意見いかがでしょう。

【篠原委員】8ページですけれども、事務局側も我々もその共通認識にしておかなければならないのは、4ヶ所で民間主体のツアーを開催したと記載がありますが、ツアーだけをいくらやっても何も変わらないですね。普段できないことをこのツアーのためにやるので満足度も当然高いわけじゃないですか。しっかりと定義を間違えないようにするには、毎日どのような形で個人を含めたお客様が取れる体制を作るかということですよ。だからこれが課題という部分の話はモニターツアーの話で終わらせてもいけなくて、日常的な付加価値が高い見学の仕組みを提供できるという仕組みにしておかないと、何か報告書だけはできますが何も変わっていないということが繰り返されてきているように思いました。それから、次の9ページですけれども。上から2番目の集客性、収益性のある取組事例が少ないとありますが、インフラをベースにして民間事業者をどのように巻き込めるかということが大切だと思います。白鳥大橋もまさに今その体制が弱いのでいろいろ仕掛けが進んでいるということだと思います。それから3番目のところですが、拡大の手引きの普及という話と説明会という話がありますが、コーチングの仕組みを作っていないと説明会を受けただけではなかなか変わらないと思います。

【河野委員】9ページで課題として記載している、インフラ施設の分野の偏りや、先ほどご指摘のあった集客性、収益性のある取組事例が少ないというのは、モデル地区の選定というところに大きく関わってくると思います。もちろん、ここまでのモデル地域選定の中で次点の方々がおいでになると思うので、そういう方々が最初の候補になるのだと思いますが、丁寧にヒアリングをして選定しないと後でまた厳しいことになるなと思っていて、そのヒアリングの評価というか選定の軸としては、一つはここに記載の通りインフラタイプの対応があります。先ほど篠原先生からもご指摘があった通り、ここまでの取組をどういう人たちが積極的にやってきているのかという、これをきっかけにして、今から「よーいどんします」でないところの方がやはり体制構築とかが絶対に進みやすいと思うので、「これを機会に頑張ります」でない人たちをちゃんと選べるというのと、二つ目は先ほどの3種類の図のところと整合するのですが、その将来性っていうところが、必ずしも一番右のところにいけるかどうかは別として、観光資源が豊かなところでないと広域観光には繋がられないので、そういうところしか選定されないとまた不公平にはなりますが、とはいえ、これまでとは違うタイプのインフラを積極的にそこだけ核で見せているけれどお金が取れるパターンでいくというようなビジネスモデルに恐らくなると思うので、そのあたりの将来性でどういふうなところに落ち着けそうな目があるのかっていうところを軸として見られ

るのではないかと思います。もう 1 つは、下から 2 つ目の情報発信のところですけども、オンラインの情報発信に特化されていますが、アナログ情報発信も結構大事だと思っ
ていまして、情報発見は見せ方かどうかということよりも一番重要なのが 2 次拡散されるか、
ということですね。ウェブサイトに出ているものや SNS で発信されたものがリツイートさ
れたり、それがバズってテレビに取り上げられたり、イベントをやることによってメディア
が取材に来たりとか、そういう一発何かをやったことが短く 3 次拡散されるっていうこと
が本当の広報の意味なので、それを意識した設計をされるといいかなと思います。動画とい
っても、もちろんインフラだからこそ、一般的な観光資源とは全く違うかっこいいものが撮
れると思うのですが、それをどの媒体でどういうふうに出すか、何分動画でどこに出すか
によって多分捉えられ方も違うし、それに気づいてくれる人も変わってくるので、その辺りの
設計がちゃんとできるといいなと思っていて、この SNS とか旅行雑誌等がどこで読者が何
人いるとか、月何万部出ているからとか、インフルエンサーがいるから、というよりもも
っと重要なポイントがあるので、そのあたりの設計をきっちりしてほしいなというこ
です。

アナログのところでは、内閣府でアイランダーをやっているじゃないですか。離島のイ
ベント、ヘビーリピーターみたいな形ですが、一般消費者が殺到するんですね。そこで参加者
のアンケート取ると、離島に 11 回以上行ったことあります、みたいな人が半数以上を占め
ていたりするような、そういう人たちが来るので、インフラツアーはそういうアイランダー
とかと結構似ていると思っていて、そういうコアファンが集まりたくなるようなイベン
トを仕掛けることによって本当に来て欲しい人たちに伝わって、おもしろいことやって
ねって言って広報してくれたり、今この卒業していくところもそうですし、新しくやって
いく後続団体もそうですし、そういうところのモニターになってくれたり、もしかしたらサ
ポーターになってくれたりするというようなことも流れとして可能性があるんで、そのあ
たりの機会をうまく使って、そこに来てくれた人を巻き込んだ取組ができていると、さら
に一部の頑張っている地域と皆さんと我々だけじゃない活性化ができるのではないかな
と思いますので、ちょっと考えていただけるといいなと思います。

【清水座長】ありがとうございました。

【阿部委員】9 ページのモデル地区の知見の全国展開が不足ということですが、やっぱり自
分は関係ないと思われないようにしなければいけないと思います。そのときのモデル地区
選定方法ですが、一流選手だけを引っ張っていくようなモデル地区のやり方をするのか、も
う少し原石を磨くような、そういうモデル地区のやり方、その中でちょっとモデル地区も戦
略を持って、関係ないと思うような管理者の方、地元の方が出てこないようにしていく部
分も必要なんじゃないかと思いました。

【清水座長】ありがとうございました。観光地域振興課長から何かコメントありますか。

【観光地域振興課長】インフラツーリズムで何をするのが一番のポイントであって、議論を聞いていると、実際やっている方々もそうだと思いますが、目指すところがちゃんと腹落ちしていないのかなというのをすごく感じています。そこは明確にしっかり打ち出しておかないと先ほどの議論にありましたようにぶれてしまうと思います。その中で観光という視点から言わせていただくと、観光で地域を作り、地域の活性化を我々としては目指したいというところなので、このインフラツーリズムもここに繋がっていくものになってほしいです。一言で片付けられているところに深みがいっぱいあって、磨き上げの部分はコンテンツ自体をやっていただくと。ツアーが終わって帰られてしまうのも残念なので、地域にどのようにして結びつけていくのか、次をちゃんと考えていかないといけないというようなことをしっかりやっていたら、まさに先生方がおっしゃっていた通りの話を一步一步順番に進めていくというところだと思うので、今はどこをやっていくのかなという今の立ち位置を見失わないようにしてちゃんとゴールを確かめながら、本当にその時々で巻き込むべき人たちをきっちり巻き込みながら広げていくってということなのかなというふうに聞いておりました。

【篠原委員】9ページに戻りますと、魅力を伝えるコンテンツ不足とありますが、魅力の磨き上げという部分の段階というのが抜けていると思います。本当は色々な客層がいますよね。マニアックな方と普通の方ともう全く興味がない人たちと、他の部分では食で釣るとかいう話もありますけど、その段階のものもまだまだあって、本来は入れて、そのコンテンツをどこにどのようにしてマーケットにすれば響くのかっていうことが重要になるので、磨き上げ方についても課題として入れていかなければならないのですね。なかなか表現を言ったらきりないぐらい出ちゃうので。

【清水座長】ここがひょっとしたら、この魅力を伝えるコンテンツ不足というか、情報コンテンツということですね。だからその磨き上げのところはここに含められますね。あと、公的機関を好きなようにやってみるといえるのは、意外とある種の属性にすごく訴求するような気がしていて、何かそういうことも上手く広報の一環として活用していくのがいいのではないかなという感じがしています。今まで多分話になかった観点で申し上げるとするとそういうのもあるかなというのを付け加えておきたいと思います。

【篠原委員】やる気のある所長さんが頑張ろうというやり方でやると、部下にうちのやる仕事ではないですということを言われ、それを説得しながら頑張ってもらっています。先ほど申し上げたようにインフラツーリズムが始まった時は、政府全体としてすごくやらなければならないぞということが各省庁に落とされていたので、国交省さんの方も明確にその

指示が現場に出たので、頑張れば褒められる、評価されるということの観点があったと思いますが、政府全体でこのインフラ環境とか公共事業の開放というものについての議論がなくなっている今、所長さんの本音とかを聞くと、全然繋がってきていないということも指摘されているし、あとは褒められる素地が何かないと、非常に今後厳しくなるということは改めて整理しなければならないことです。ただ、これがちゃんとその明確にする指示が出せないことはわかっていますが、その辺のことをやらないと、現場の頑張ってくれる所長さん頼りだと続いていかないと感じているところでございます。

【清水座長】 それでは、今後のスケジュールのご説明をよろしく申し上げます。

【事務局】 1 ページに全体のスケジュール案を記載しております。手引きの改定につきましては、来年度早々の公表に向けて作業を進めていきたいと思っております。合わせて、来年度全体としましては、様々な施設での検討や手引きの普及、魅力ある情報発信、インバウンド対応を引き続き検討しながらやっていきたいと思っております。さらには、モデル地区における支援というの、個別に行っていきたいと思っております。今回の引き続き支援をする場所の他に社会実験終了活動については定期的に情報を確認しながら、アドバイスできる体制を取ることや、さらには新たなモデル地区での実施というのを今後検討していきたいと考えております。

モデル地区の選定は 2 ページでございます。新たなモデル地区の追加ということで、モデル地区を選定するにあたっての視点というのを大雑把に三つほど考えています。なるべくダムや橋以外の多様な分野から選定していきたいと思っております。周辺観光資源との連携が見込まれる取組ということで収益性、集客性というところを見ながら、そういった取組の選定をしたいと思っております。さらにもう一つの観点でいうと、多様な段階の取組からということで、ある程度一定規模の顧客があって、レベルアップというさらなることを図る地区と全然動いてないところからこれからやるという地区もあるのではないかと、ということも踏まえて、そういった段階的な取組の箇所からも選定したいと、こうした様々な観点から公募して選定していきたいというふうに考えています。

スケジュールにつきましては 3 ページになります。手引きにつきましては、来年度春頃に公表していきたいとしています。新たなモデル地区の選定につきましては、年度を超しますが、4 月下旬ぐらいまでには推薦をいただきまして、その後、モデル地区の調査、基本的なデータ調査をしまして、次回第 11 回の懇談会の 6 月、7 月ぐらいに議論をしていきたいと考えております。最後に有識者懇談会等のスケジュールでございます。

【清水座長】 ありがとうございます。それでは、いかがでしょうか。

【篠原委員】 2 ページでございますが、1 ポツのところが多様な分野のインフラ施設から選

定、なるべくダムや橋以外でということになっていますが、ダムや橋でもいいのですよね。駄目と捉えられてしまうので、書き方を注意いただきたいと思います。それから、大切な部分ですが、スケジュールでホームページに発表する所で選定のところですが、スケジュールの見直しはなるべく前倒しに選定できるようにするということをお願いしておきたいと思います。それに従って先方に際しての委員会の部分も臨時で開いてもいいと思います。

【清水座長】2 ページですけれども、今まで推薦はありましたが、選定しなかったところを中心にということ伺いました。ただ、何を検証するのか、一応社会実験なので、ちゃんと狙いが動くかどうかということを見るということはやっぱり筋だと思っています。そうすると、着眼点が多いと全部は見切れないと思います。どれか 1 個に絞ってその差を見る目がないと、ひょっとしたら上手くいかないかもしれないという感じがします。新たにここから調整をして、また応募といっても時間がかかるし、そういうものは来年度以降に追加があるというフレームになっているとその時に対応すればいいと思います。今はスタートできるものからがいいのではないかと思います。

【篠原委員】一つ確認しておきたいのですが、今回卒業いただけるエリアについても、来年度の事業費の中で、地元として一生懸命対応目標を作りたいとかと言ったときの支援、費用はどうなるのでしょうか。

【事務局】定期的に現場の方と地域の方の意見を聞きながら対応をする予定です。

【清水座長】そういうのは少し柔軟にできるようにしておいて貰えると助かりますよね。そうしますと、新たなモデル地区の選定はモデル地区成果発表会よりも早く開催する必要がありそうですね。

【河野委員】オンライン開催でいいと思います。

【清水座長】そうですね。全体を通してご意見ございますか。

【事業総括調整官】皆さんのお話を伺い、知識を書き貯めた人というところをどうしていくのかというのは、今日の議論を聞いても大きなポイントなのかなというふうに感じたところでございます。それから、その人にも繋がるかもしれないですけども、やはりインフラツーリズムということを考えると、もちろんその商業的にちゃんとお金が落ちて地域が活性化する、元気になるということが重要なんですけども、やはり先ほど篠原先生からもありましたけど、やはり褒められるというか活動に対して評価されるというのがちょっと今は弱いというのは確かにそうなのかなと思います。結局その人が頑張ろうと思う原点はそう

いうところにあるような気がするので、そういうようなところをどう広めていくというか、そういうものが今回のこの手引きの中にももちろん書いてないと思いますので、そういうところをどうするのかというのが大きなポイントなのかなと思います。足りないところについて、いろいろご意見いただきましたので、これを踏まえて反映していきたいというふうに思っております。どうもありがとうございました。

【清水座長】あとよろしいですか。そうしますと、今日いろいろと結構中身が変わるようなご指摘をいただいたので、普通でしたら座長預かりということになるのですが、資料1と2はいいと思うのですが、資料3～5についてはいただいたご意見を反映して、メールで皆様に確認のうえ、私の方で最終的に預かりとさせていただきたいと思いますが、それでよろしいですか。議事は以上になりますので、以降の進行を事務局の方お願いいたします。

【事務局】長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。本日の議事録につきましては後日事務局から確認させていただきます。そちらをホームページに出していただくということになりますのでよろしく申し上げます。それでは、最後にインフラツーリズム有識者懇談会の閉会にあたりまして、公共事業企画調整課長の岩崎よりご挨拶を申し上げます。

【事業総括調整官】本日は委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、ご議論していただきまして本当にありがとうございました。今日、課長や室長が若干バタバタして出てしまい、大変有意義な時間を一部取り入れないことが大変残念でありますけれども、今日の中身については課長等にしっかり伝えて、特に今後の方向性について多様なご意見をいただきましたので、取り組みたいと考えているところでございます。

本日の議論を踏まえまして、今後の取組については引き続き具体化をしっかり図っていくということで、特にモデル地区における検討につきましては、インフラツーリズムの魅力増が掛かる取組と思っておりますので、新たなモデル地区の選定にあたっては、その議論を踏まえて、しっかり取り組んで他の好事例になるような候補をぜひ選んでいきたいというふうに考えているところでございます。

手引きについては、本日いろいろなご意見をいただきましたので、もちろんなるべく早く公表するようにしていきたいと思いますが、少し内容を充実させた上で皆様にお諮りをいたしまして、早期に公表して、全国的に広めていきたいというふうに考えているところでございます。

国交省としましても、丁度コロナもあって、インフラツーリズムをまたこれから伸ばしていく、そういう転換点にあるというふうに感じるところでございまして、より一層取組を進めて参る所存でございます。委員の皆様には引き続きご指導、ご助言等を賜りますようお願い

願い申し上げまして私からの挨拶と代えさせていただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

【事務局】以上をもちまして第10回インフラツーリズム有識者懇談会を閉会させていただきます。ありがとうございました。